



2021. 8. 15

2020年7月と同程度の増水でも潜水橋を超えなかった



2020年7月8日

河床掘削以前はチョットした出水でもこのようになっていた



2021. 08. 18

長雨増水で寄り洲の中ほどまで水が上昇



2021. 8. 22

水が引いた後(矢印の場所で長靴の深さになった)



2021. 8. 21

阪神橋梁付近の未施工区間異常なし



2021. 8. 21

洪水後も河口干潟残る

7月末の台風9号に引き続き、から8月下旬にかけて全行的と云ってもいい程の豪雨が発生。停滞前線が居座りそこへ帯状降水帯発生、次々と雨雲が流れ込み、記録的豪雨洪水・土砂災害警戒レベル5の警報が広域・長期間にわたり発令された。しかし武庫川流域では一時的に線状降水帯が発生したものの、比較的短時間に通り過ぎ災害をもたらすような豪雨には至らなかった。これまで施工された改修工事現場も何事もなく人的物的被害はなかった。

降雨が収まり少し晴れ間が覗くようになって、ものすごい勢いで流れる濁流に恐怖を覚えた。(武庫川ライブに動画アップした)。2020年7月6日からの九州北部豪雨の際、甲武橋最高水位は1.78m 仁川0.8mに達した。8月長雨では甲武橋水位1.75mに達し仁川水位も0.88mと北九州豪雨と同程度の出水があったにも関わらず下流部の高水敷には達せず河川改修工事の成果が表れたものと思う。後半の改修工事で更に安全度上昇するものと思うが、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)第6次評価報告書は異常気象による豪雨警告しており、河川改修工事はなにがしかの環境破壊を伴う。治水安全は河川施設だけに頼れないことは明らかで流域住民を巻き込んだ、持続的な取り組みが必要ではないか。これを実現するのが「参画と協働の川づくり」ではないか。